

みずほマーケット・トピック(2015年5月29日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

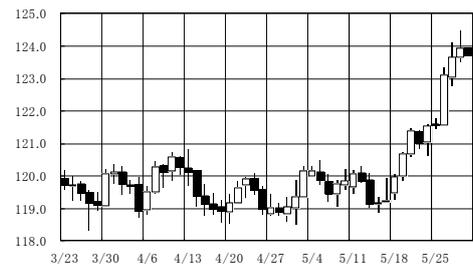
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は急伸する展開。週初 25 日に 121 円台後半でオープンしたドル/円は、一時週安値となる 121.45 円をつけるも、前週末に公表された米 4 月消費者物価指数の好調な結果やイエレン FRB 議長の発言を受けたドル買いの流れを引き継ぎ、121 円台後半まで上昇。26 日にかけてもドル買い地合いが続く中、米 4 月耐久財受注や米 4 月新築住宅販売などの良好な結果を好感すると、ドル/円は一段高となり 123 円台前半まで買い進められた。27 日も材料難の中、FRB による米利上げ観測が意識される状況下、前日からの流れは変わらず、ドル/円は遂に 124 円台を突破、だが調整売りも入る中、123 円台後半まで反落した。28 日には、米新規失業保険申請件数や米 4 月中古住宅販売仮契約の市場予想を上回る良好な結果に再びドル買いが強まると、ドル/円は一時週高値となる 124.46 円まで上昇した。しかしその水準では売り意欲も強くドル/円は 123 円台後半まで押し戻され、本日にかけても同水準で動意に欠ける展開が継続している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は揉み合う展開。週初 25 日に 1.09 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.1010 をつけるもギリシャのデフォルト懸念が煽る中、ドル買い優勢の流れに 1.09 台後半まで下落。26 日にかけても米経済指標の良好な結果を受けたドル買いにユーロ/ドルは 1.08 台後半まで続落した。27 日は、ECB がギリシャの銀行に対する緊急流動性支援(ELA) 枠を据え置いたとの報道にユーロ/ドルは上値重く推移し、一時週安値となる 1.0819 まで下落する場面が見られたが、ギリシャ救済融資の合意が近いとの報道に、1.09 台を回復。28 日は、米新規失業保険申請件数や米 4 月中古住宅販売仮契約の良好な結果を好感したドル買いを背景にユーロ/ドルは 1.08 台まで反落するも、ギリシャ情勢の改善を期待する向きも強く、直ぐに 1.09 台半ばまで値を戻した。本日にかけても同水準で方向感に欠ける地合いが続いている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		5/22(Fri)	5/25(Mon)	5/26(Tue)	5/27(Wed)	5/28(Thu)
ドル/円	東京9:00	121.06	121.56	121.66	123.00	123.73
	High	121.57	121.78	123.33	124.09	124.46
	Low	120.64	121.45	121.52	122.77	123.50
	NY 17:00	121.55	121.57	123.10	123.67	123.95
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1111	1.0992	1.0970	1.0887	1.0899
	High	1.1208	1.1010	1.0981	1.0929	1.0959
	Low	1.1003	1.0959	1.0864	1.0819	1.0867
	NY 17:00	1.1018	1.0977	1.0872	1.0904	1.0949
ユーロ/円	東京9:00	134.56	133.62	133.45	133.91	134.83
	High	135.33	133.83	134.51	135.01	135.85
	Low	133.74	133.27	133.10	133.78	134.76
	NY 17:00	133.84	133.49	133.85	134.78	135.70
日経平均株価	20,264.41	20,413.77	20,437.48	20,472.58	20,551.46	
TOPIX	1,647.85	1,659.15	1,659.57	1,661.33	1,672.76	
NYダウ工業株30種平均	18,232.02	-	18,041.54	18,162.99	18,126.12	
NASDAQ	5,089.36	-	5,032.75	5,106.59	5,097.98	
日本10年債	0.42%	0.42%	0.42%	0.39%	0.40%	
米国10年債	2.21%	-	2.14%	2.13%	2.14%	
原油価格(WTI)	59.72	-	58.03	57.51	57.68	
金(NY)	1,204.90	-	1,187.80	1,186.50	1,188.80	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週、米国では6月5日(金)に5月雇用統計が発表され、雇用改善が継続しているかどうか注目される。雇用統計の調査週に当たる5月第3週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は、趨勢を示す4週移動平均で26.6万件と4月調査第3週の28.5万件から改善した。市場では、5月の非農業部門雇用者数は前月比+22.3万人と4月の同+22.3万人から減少するものの、引き続き雇用回復の目安となる同+20万人を上回る推移が続くと予測されている。20日に公表された4月のFOMC議事要旨によると、現在の経済指標は6月利上げを支えるには不十分だとする委員が多数いることが示された。そのため、FRBの利上げにおいて「雇用の一段の改善」が条件の一つとなっている中、5月雇用統計が良好な結果となった場合でも、6月利上げ実施となる可能性はほとんどないとみられるが、年内利上げの蓋然性を高めることになるため、為替市場ではドル高圧力が強まるだろう。このほか、経済指標では1日(月)に5月ISM製造業景気指数、3日(水)に4月貿易収支が発表される。
- 欧州では、3日(水)にECB理事会が開催され、金融政策の現状維持が見込まれる。19日に行われたクレー ECB 理事の講演で、拡大資産購入プログラム(毎月600億ユーロのペースで官民資産を総額1.14兆ユーロ購入、APP)において、クレー ECB 理事は「月平均600億ユーロのペースを確保すべく、5~6月の前倒し購入をやや増やすつもりである。9月にも幾分かの後倒しの購入があるかもしれない」と発言した。これを受けて、市場の一部ではECBの追加緩和にまで言及する動きもみられ、ユーロ相場は大幅に下落した。しかし、クレー発言の真意は「7~8月の夏休み期間は流動性が低くなるので、ECBの購入は減額するが、均らしてみれば月600億ユーロのペースは不変である」というものであり、あくまで現状の枠組みを完遂するという意味合いである(こうしたAPPの完全実施に神経をとがらせている様子は4月ECB議事要旨でも伺える)。インフレ期待が順当に浮揚する状況下、あえて追加的な一手を打ちこむ必要性は薄く、現状維持を想定するのが妥当だろう。
- 本邦では、1日(月)に5月新車販売台数、2日(火)に4月毎月勤労統計(速報値)、5日(金)に4月景気動向指数が発表される。このうち、毎月勤労統計については、消費増税後の個人消費の低迷が続かなかで、消費回復の原動力となる賃金動向が注目されよう。特に実質賃金については、春季労使交渉(春闘)で賃上げの妥結が広がっているほか、昨年4月の消費増税による物価上昇圧力が一巡するなかで、2年ぶりにプラス転換する可能性があり、その伸び幅が注目される。

	本 邦	海 外
5月29日(金)	—————	・米5月シカゴ購買部協会景気指数 ・1~3月期GDP(2次速報値)
6月1日(月)	・5月自動車販売台数 ・1~3月期法人企業統計	・4月個人所得・消費 ・5月ISM製造業景気指数 ・4月建設支出
2日(火)	・5月マネタリーベース	・米4月製造業新規受注 ・ユーロ圏5月消費者物価
3日(水)	—————	・米4月貿易収支 ・米5月ISM非製造業景気指数 ・米地区連銀経済報告(ページブック) ・ECB理事会 ・ユーロ圏4月失業率
4日(木)	—————	・米1~3月期労働生産性(確報)
5日(金)	・4月景気動向指数	・米5月雇用統計 ・米4月消費者信用残高 ・ユーロ圏1~3月期GDP(速報値) ・独4月製造業受注

【当面の主要行事日程(2015年6月~)】

- 米FOMC(6月16~17日、7月28~29日、9月16~17日)
- 日銀金融政策決定会合(6月18~19日、7月14~15日、8月6~7日)
- ユーロ圏財務相会合(6月18日)
- EU経済・財務相(ECOFIN)理事会(6月19日)
- 欧州中銀理事会(7月16日、9月3日、10月22日)

以 上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2015年6月)

月	火	水	木	金	週末
<p>1</p> <p>日本 自動車販売台数(5月) 日本 法人企業統計(1~3月期) 米国 個人所得・消費(4月) 米国 ISM製造業景気指数(5月) 米国 建設支出(4月)</p>	<p>2</p> <p>日本 マネタリーベース(5月) 米国 製造業新規受注(4月) ユーロ圏 消費者物価(速報、5月)</p>	<p>3</p> <p>米国 貿易収支(4月) 米国 ISM非製造業景気指数(5月) 米国 ページブック(地区連銀経済報告) ユーロ圏 ECB理事会 ユーロ圏 失業率(4月)</p>	<p>4</p> <p>米国 1~3月期労働生産性(確報)</p>	<p>5</p> <p>日本 景気動向指数(速報、4月) 米国 雇用統計(5月) 米国 消費者信用残高(4月) ユーロ圏 GDP(速報値、1~3月期) ドイツ 製造業受注(4月)</p>	
<p>8</p> <p>日本 GDP(2次速報、1~3月期) 日本 景気ウォッチャー調査(5月) 日本 国際収支(4月) 日本 貸出・預金動向(5月) 日本 企業倒産件数(5月) ドイツ 鉱工業生産(4月) ドイツ 貿易収支(4月)</p>	<p>9</p> <p>日本 マネーストック(5月) 米国 卸売売上高(4月)</p>	<p>10</p> <p>日本 企業物価(5月) 日本 機械受注(4月) 米国 財政収支(5月)</p>	<p>11</p> <p>日本 法人企業景気予測調査(4~6月期) 日本 小売売上高(5月) 米国 企業在庫(4月)</p>	<p>12</p> <p>日本 第三次産業活動指数(4月) 日本 鉱工業生産(確報、4月) 米国 生産者物価(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、6月) ユーロ圏 鉱工業生産(4月)</p>	
<p>15</p> <p>米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(6月) 米国 鉱工業生産(5月) 米国 TICLレポート(対内対外証券投資、4月) ユーロ圏 貿易収支(4月)</p>	<p>16</p> <p>米国 住宅着工(5月) 米国 FOMC(~17日) ドイツ ZEW景況指数(6月)</p>	<p>17</p> <p>日本 貿易収支(5月) ユーロ圏 消費者物価(確報、5月)</p>	<p>18</p> <p>日本 日銀金融政策決定会合(~19日) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(6月) 米国 景気先行指数(5月) 米国 消費者物価(5月) 米国 経常収支(1~3月期) ユーロ圏 財務相会合</p>	<p>19</p> <p>日本 景気動向指数(確報、4月) ユーロ圏 ユーロ圏経常収支(4月) EU EU経済・財務相(ECOFIN)理事会</p>	
<p>22</p> <p>日本 金融経済月報 米国 中古住宅販売(5月)</p>	<p>23</p> <p>米国 新築住宅販売(5月) 米国 耐久財受注(5月)</p>	<p>24</p> <p>日本 企業向けサービス価格(5月) 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨 米国 GDP(3次速報、1~3月期) ドイツ IFO企業景況感指数(6月)</p>	<p>25</p> <p>米国 個人所得・消費(5月)</p>	<p>26</p> <p>日本 家計調査(5月) 日本 労働力調査(5月) 日本 全国消費者物価(5月) 日本 東京都都区消費者物価(6月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、6月)</p>	
<p>29</p> <p>日本 鉱工業生産(速報、5月) 日本 商業販売統計(5月)</p>	<p>30</p> <p>日本 新設住宅着工(5月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(4月) 米国 シカゴPMI(6月) 米国 消費者信頼感指数(6月) ユーロ圏 失業率(5月) ユーロ圏 消費者物価(速報、6月)</p>				

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

経済指標カレンダー(2015年7月)

月	火	水	木	金	週末
		1 日本 自動車販売台数(6月) 日本 日銀短観(6月調査)	2 日本 マネタリーベース(6月) 米国 製造業新規受注(5月)	3 米国 雇用統計(6月) 米国 ISM非製造業景気指数(6月)	
6 日本 景気動向指数(確報、5月) 米国 ISM非製造業景気指数(6月)	7 米国 貿易収支(5月) 米国 消費者信用残高(5月)	8 日本 国際収支(5月) 日本 景気ウォッチャー調査(6月) 日本 貸出・預金動向(6月) 日本 *企業倒産件数(6月) 米国 FOMC議事要旨	9 日本 機械受注(5月) 日本 マネーストック(6月)	10 日本 企業物価(6月) 米国 卸売売上高(5月)	
13 日本 第三次産業活動指数(5月) 日本 5月鉱工業生産(確報) 米国 財政収支(6月)	14 日本 日銀金融政策決定会合(~15日) 米国 小売売上高(6月) 米国 企業在庫(6月)	15 米国 生産者物価指数(6月) 米国 鉱工業生産(6月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(7月) 米国 ページュブック(地区連銀経済報告)	16 日本 金融経済月報 米国 フィアデルフィア連銀景気指数(7月) ユーロ圏 ECB理事会	17 米国 TICレポート(対内対外証券投資、5月) 米国 住宅着工(6月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、7月) 米国 消費者物価指数(6月)	
20 日本 海の日	21 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨 日本 景気動向指数(確報、5月)	22 米国 中古住宅販売(6月)	23 日本 貿易収支(6月) 米国 景気先行指数(6月)	24 米国 新築住宅販売(6月)	
27 日本 企業向けサービス価格(6月) 米国 耐久財受注(6月)	28 米国 FOMC(~29日) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(5月)	29 日本 商業販売統計(6月)	30 日本 鉱工業生産(速報、6月) 米国 GDP(1次速報、4~6月期)	31 日本 労働力調査(6月) 日本 家計調査(6月) 日本 全国消費者物価(6月) 日本 東京都都区消費者物価(7月) 日本 新設住宅着工(6月) 米国 シカゴPMI(7月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、7月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年5月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年4月分)
2015年5月27日	「7年10か月ぶりの円安・ドル高」を受けて
2015年5月26日	ドル/円上昇をもたらした2つの要因～従前の想定は変わらず～
2015年5月25日	ECB理事会議事要旨(4月15～16日開催分)について
2015年5月22日	週末版(ユーロ圏に戻るリアルマネー～証券投資動向から占うユーロ相場～)
2015年5月21日	クレー発言の真意とQEの実施状況について
2015年5月20日	本邦1～3月期GDPについて～消費&在庫が下支え～
2015年5月19日	足計のギリシャ情勢について～6月返済も危ういか～
2015年5月18日	ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退～
2015年5月15日	当面のギリシャ情勢の整理～何度目かの佳境～
2015年5月14日	ユーロ圏1～3月期GDP(一次推計値)について
2015年5月13日	本邦3月国際収支統計と円相場見通しについて
2015年5月12日	本邦の雇用・賃金情勢について～完全雇用到達後の世界～
2015年5月11日	英国総選挙と今後についての論点整理
2015年5月8日	QQEの効果検証～「金利への回帰」の布石か～
2015年5月7日	欧州委員会春季経済予測について
2015年5月1日	週末版(日銀政策決定会合を終えて～勝負の秋～)
2015年4月30日	米1～3月期GDP及びFOMCについて
2015年4月28日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか？
2015年4月27日	最近のギリシャ情勢に関する整理
2015年4月24日	週末版(日銀政策決定会合プレビューその②～参院財政金融委員会での総裁発言を受けて～)
2015年4月23日	日銀政策決定会合プレビュー
2015年4月22日	本邦3月貿易統計～黒字転化をどう評価するか～
2015年4月20日	重要な論点は「いつやるか」から「何回できるか」
2015年4月17日	週末版(ECB、PSPFの残高状況に関して～「12%」から何を読み取るか～)
2015年4月16日	ECB理事会を終えて～与信改善を強調～
2015年4月15日	通貨政策の変節と日銀～浜田参与発言を受けて～
2015年4月14日	ECB理事会プレビュー～早くも聞こえ始めたtapering～
2015年4月13日	米為替政策報告書について～ドル高容認の継続？～
2015年4月10日	週末版
2015年4月7日	量的・質的金融緩和(QQE)導入から2年を受けて
2015年4月6日	米3月雇用統計～6月利上げの芽は潰えたか～
2015年4月3日	週末版(ECB理事会議事要旨(3月5日開催分)～“prudent optimism(節度ある楽観)”の先行きは～)
2015年4月2日	日銀短観3月調査～「需要不足」から「供給不足」へ～
2015年4月1日	外貨準備構成通貨の内訳(14年12月末時点)
2015年3月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年2月分)
2015年3月27日	週末版
2015年3月26日	本邦対内・対外証券投資の動向について
2015年3月25日	本邦家計部門の金融資産の現状について
2015年3月24日	円相場の基礎的需給環境の整理
2015年3月23日	ユーロ圏1月国際収支統計～対内証券投資が回復～
2015年3月20日	週末版(第3回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)を終えて～ユーロ圏の与信機能に復活の兆し？～)
2015年3月19日	FOMCを終えて(3月17～18日開催分)
2015年3月18日	ECB、量的緩和政策(QE)に係るQ&A
2015年3月17日	ECBの国債・政府機関債購入額(第1週目)を受けて
2015年3月16日	ユーロ相場の水準感～佳境を迎えるユーロ売り～
2015年3月13日	週末版(米国はどこまでユーロ安を許容するのか～試される「強いドルは国益」～)
2015年3月12日	日銀の追加緩和はあるのか～払拭しきれない可能性～
2015年3月11日	3月レバトリ円高説について
2015年3月10日	なぜ為替と株値の相関が低下しているのか？
2015年3月9日	ECB理事会を終えて～後ろめたさを見せたドラギ総裁～
2015年3月6日	週末版
2015年2月27日	週末版
2015年2月26日	為替証拠金取引で外貨買いポジションが急増
2015年2月25日	イレブン議会証言を終えて～年央利上げに言質与えず～
2015年2月24日	円安シナリオをめぐる死角～リスク要因の点検～
2015年2月23日	ユーロ圏財務相会合を受けて～しばしの休息～
2015年2月20日	週末版(初のECB議事要旨公表を受けて～歴史に残る発行物に～)
2015年2月19日	本邦1月貿易収支について～輸出増に過信は禁物～
2015年2月18日	当面のギリシャ情勢に関する論点整理
2015年2月17日	ユーロ圏GDPや欧州委員会冬季経済予測を受けて
2015年2月16日	本邦10～12月期GDP(1次速報値)について
2015年2月13日	週末版(米国における雇用と物価の関係～デュアルマンドートの狭間で～)
2015年2月12日	イスタンブールG20を終えて～為替と財政への含意～
2015年2月10日	最近の対外証券投資とドル/円相場の関係について
2015年2月9日	本邦2014年国際収支状況を受けて～円買い復活？～
2015年2月6日	週末版
2015年2月4日	RBA利下げと今後の豪ドル相場の水準感について
2015年2月3日	独走するドイツの経常黒字が意味するもの
2015年2月2日	ユーロ圏12月消費者物価指数(HICP)について
2015年1月30日	週末版
2015年1月29日	FOMCを終えて～どこまでドル高に寛容か？～
2015年1月28日	改めて確認する通貨・金融政策の立ち位置
2015年1月27日	2014年貿易収支と円相場～円安見通しのリスク～
2015年1月26日	米ドル建て投資信託が好調
2015年1月23日	週末版(ECB理事会を終えて～今後の鍵は「25%ルール」の行方～)
2015年1月22日	日銀金融政策決定会合～ハロウィン・ロジックの行方～
2015年1月21日	ユーロ相場にまつわる資本フローについて
2015年1月20日	ECB理事会プレビュー～QE、4つのタイプ～
2015年1月19日	スイス関連のエクスポージャー～BIS統計より～
2015年1月16日	週末版(スイス国立銀行の政策決定について～日本に突きつけられた「撤退戦の難しさ」～)
2015年1月14日	本邦企業の海外進出と為替について
2015年1月13日	11月国際収支統計や12月対内対外証券投資について
2015年1月9日	週末版(外貨準備構成通貨の内訳について(14年9月末時点)～ユーロ比率の大幅低下をどう読むか？～)
2015年1月8日	ユーロ圏12月消費者物価指数(HICP)について
2015年1月7日	最近のユーロ相場に対する考え方
2015年1月5日	2015年、日米欧の3大コンセンサス
2014年12月26日	週末版
2014年12月25日	2015年の円相場～見通しのポイント～
2014年12月24日	2015年、最初のテーマはギリシャになるか？
2014年12月22日	ECB理事会、輪番制の解説
2014年12月19日	週末版